



平成 30 年 8 月 21 日
独立行政法人国立科学博物館

報道関係各位

企画展「標本づくりの技（ワザ）－職人たちが支える科博－」
開催ならびにプレス内覧会実施のお知らせ

国立科学博物館（館長：林良博）では、9 月 4 日（火）から、企画展「標本づくりの技（ワザ）－職人たちが支える科博－」を開催いたします。

本企画展のオープンに先立ち 9 月 3 日（月） に、別添のとおり プレス内覧会 を実施いたしますので、併せてご案内申し上げます。

国立科学博物館は、9 月 4 日（火）から 11 月 25 日（日）の期間で、企画展「標本づくりの技（ワザ）－職人たちが支える科博－」を開催いたします。

博物館が収集した自然物や科学技術の産物などの「モノ」は、自然物は「標本化」という手順を、科学技術資料は整理や修復などの手順を経てはじめて、標本や資料として研究・展示に活用され、長期保管が可能となります。本企画展では、標本とは何か？に始まり、あまり知られていない標本づくりの「技（ワザ）」を、動物・植物・地学・人類・理工学の 5 研究部ごとに紹介します。標本づくりの技を習得した者はまさに職人と呼ぶに相応しく、職人たちと標本づくりの質が標本の生命を左右します。職人たちによって作られた数々の標本に加え、標本づくりの技や道具類も数多く展示します。標本づくりの作業現場も再現しました。まるで博物館のバックヤードにいるような臨場感をお楽しみください。

本企画展は、『月刊！スピリッツ』（小学館）で連載中の博物館マンガ『へんなものみっけ！』とコラボをしています。作者の早良朋さんは、当館で実際に標本を作っていた経歴をもち、当館がマンガの制作に協力しています。展示室内では、5 研究部ごとにマンガのイラストを展示します。

つきましては展示のオープンに先立ち、9 月 3 日（月）15 時 00 分～16 時 00 分の間、プレス内覧会 を実施します。取材・記事の掲載など本企画展の広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

記

【会 場】国立科学博物館（東京都台東区上野公園 7-20）日本館 1 階企画展示室

【開催期間】平成 30 年 9 月 4 日（火）～11 月 25 日（日）

【開館時間】午前 9 時～午後 5 時（金・土曜日、10 月 31 日（水）、11 月 1 日（木）は午後 8 時まで）

【入 館 料】常設展示入館料のみでご覧いただけます。

（一般・大学生：620 円 高校生以下および 65 歳以上無料）

【休 館 日】毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は開館し、火曜日休館。ただし 10 月 1 日（月）は開館）

【主 催】国立科学博物館

【展示概要】別添の「展示概要」参照

【問合せ先】国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 担当：松澤裕子

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL：03-5814-9883、FAX：03-5814-9898、E-mail：kikakuten@kahaku.go.jp

報道関係各位

平成 30 年 8 月 21 日
独立行政法人 国立科学博物館

企画展「標本づくりの技（ワザ）－職人たちが支える科博－」
プレス内覧会のお知らせ
平成 30 年 9 月 3 日（月）15 時 00 分～／国立科学博物館

国立科学博物館では、企画展「標本づくりの技（ワザ）－職人たちが支える科博－」の開催に先立ち、下記のとおりプレス内覧会を実施いたします。

当日は、当館担当研究者等による展示解説を行いますので、ぜひご参加いただき、記事として取り上げていただければ幸いです。

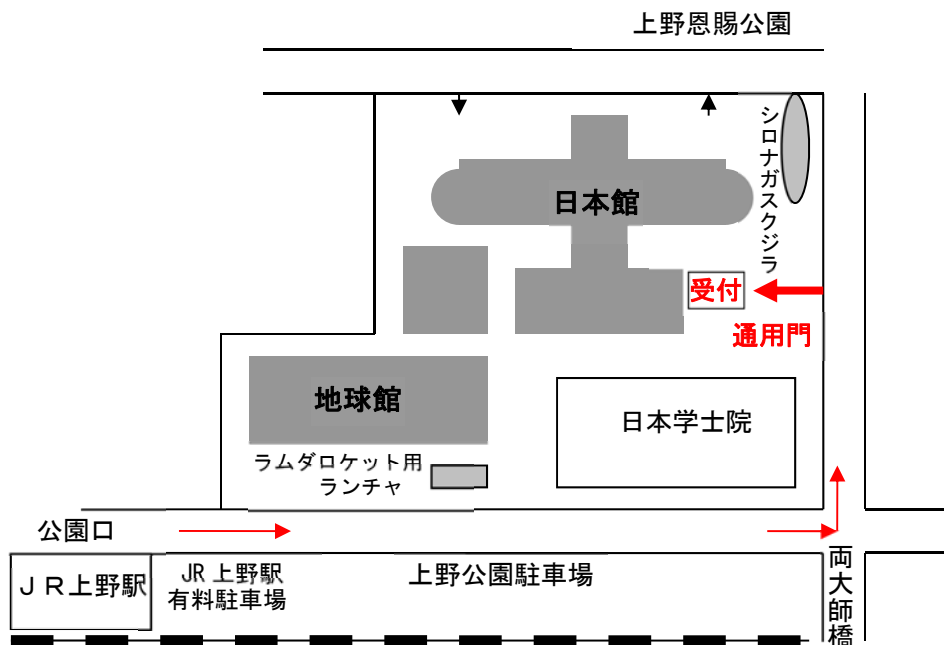
記

【日 時】 平成 30 年 9 月 3 日（月）15 時 00 分～16 時 00 分（受付開始 14 時 30 分～）

【会 場】 国立科学博物館 （東京都台東区上野公園 7-20）

【受 付 場 所】 国立科学博物館 事務棟入口 ※通用門からお入りください。

＜交通のご案内＞ JR 上野駅公園口から徒歩 5 分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅から徒歩 10 分
京成電鉄上野駅から徒歩 10 分
※駐車場の用意はございません。



当日のスケジュール

14 時 30 分～

受付開始（受付場所：事務棟入口 ※通用門からお入りください）

15 時 00 分～16 時 00 分 展覧会内覧（会場：日本館 1 階企画展示室）

- ・ 当館担当研究者による展示解説を行い、皆様からのご質問にお答えします。

【主な解説者】

国立科学博物館動物研究部脊椎動物研究グループ研究主幹

田島 木綿子

- ・ 展示室内の撮影が可能です。

展示監修者のプロフィール



動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究主幹

田島 木綿子（たじま ゆうこ）

専門は海棲哺乳類学、獣医病理学、脊椎動物形態学。

イルカ、クジラの後肢の退化について比較形態学的に研究を進めています。また、ストランディング個体はなぜ海岸に打ち上がってしまうのか？という謎を病気という観点から解き明かしています。



動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究主幹

西海 功（にしうみ いさお）

専門は鳥類。

分子生物学的な手法を用いて鳥類の繁殖生態や種分化に関する研究を行っています。親子判定や性判定によって、夫婦・親子の利益の対立と協同を進化的な観点から解明することを目指しています。また、日本の鳥類の由来を調べています。



植物研究部 陸上植物研究グループ 研究主幹

田中 伸幸（たなか のぶゆき）

専門は顕花植物、熱帯植物。

熱帯には、まだまだ科学で認識されていない植物がたくさん存在すると推定されています。東南アジア大陸部をフィールドに、ショウガ科などを中心として顕花植物の種の多様性を明らかにする研究をしています。



地学研究部 鉱物科学研究グループ グループ長

佐野 貴司（さの たかし）

専門は火山。

溶岩や火山灰の記載や化学分析を行い、地下のマグマ活動を調べています。超巨大火山のマグマ成因や海溝から沈み込んだ水が火山として噴火するメカニズムの解明を目指しています。



地学研究部 生命進化史研究グループ 研究員

木村 由莉（きむら ゆり）

専門は哺乳類古生物学（特に新生代の陸生哺乳類）。

小型哺乳類化石を対象に古生態や進化のプロセスを研究しています。とくに、パキスタンから見つかった齧歯類化石を用いています。



人類研究部 人類史研究グループ 研究主幹

坂上 和弘（さかうえ かずひろ）

専門は法医人類学。

人骨を読み解き、人類進化の過程や日本人の形成など大きな歴史を紐解く研究をしています。また、法医人類学者として、人骨から読み取ったことを警察や法医学教室などに伝えています。

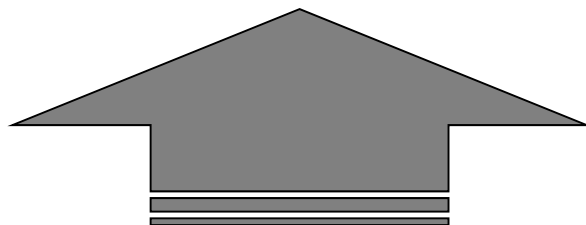


理工学研究部 理化学グループ 研究員

室谷 智子（むろたに さとこ）

専門は地震学。

地震波形や津波波形を使って大地震の断層パラメータやすべり分布を求めることや、断層パラメータのスケールリング則について研究しています。



【 返 信 用 紙 】

F A X 番 号

< 0 3 - 5 8 1 4 - 9 8 9 8 >

企画展「標本づくりの技（ワザ）
ー職人たちが支える科博ー」
プレス内覧会 参加票

（平成30年9月3日（月）15：00～ ※受付：14：30～）

参加をご希望される方は、下記項目にご記入の上、8月31日（金）までに

F A Xにてご返信いただければ幸いです。

お手数をおかけいたしますがよろしくお願い申し上げます。

□ご出席

貴社名_____

貴メディア・所属部署名_____

ご芳名_____

連絡先

住所：〒 _____

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____

備考_____

展示概要

本展では、標本とは何か？に始まり、あまり知られていない標本づくりの「技（ワザ）」を、国立科学博物館の動物・植物・地学・人類・理工学の5研究部ごとに紹介します。また、職人たちによって作られた数々の標本に加え、標本づくりの技や道具類も数多く展示します。まるで博物館のバックヤードにいるような臨場感をお楽しみください。

展示構成

1. 標本とは何か？

標本の定義や種類を、国立科学博物館の5研究部ごとに紹介します。また、百年単位で保管された標本から見えてくる貴重な成果も紹介します。

2. 標本づくりの部屋をのぞいてみよう！

収集された自然物や科学技術の産物などの「モノ」がどのように「標本」や「資料」としての命を獲得するのか、そのプロセスを研究部ごとに臨場感を持って再現します。

- ・人骨修復の部屋
- ・さくよう腊葉標本貼付の部屋をのぞいてみよう！
- ・クリーニングの部屋ー服は「汚れる」作業場ー
- ・化石レプリカの部屋ー工房のようなラボー
- ・理工学研究部の資料の取り扱い
- ・てんし展翅の部屋
- ・じゅうもうかりはくせい獣毛仮剥製の部屋



本企画展は、博物館のウラ側を描く人気マンガ『へんなものみっけ！』（小学館刊）とコラボしています。

3. 博物館のこれから

博物館の歴史を振り返りつつ、国立科学博物館の標本資料収集の歩みをご紹介し、これからのあり方を考えます。

主な展示資料

- ・ケナガネズミタイプ標本
- ・ツチクジラはくせい剥製（レスキュー標本）
※9月11日より展示予定
- ・1884（明治17）年採集のさくよう腊葉標本
- ・シカマイア実物化石と生態復元模型

- ・伝インカ帝国のミイラ
- ・明治22年熊本地震の写真（レプリカ）
※日本で一番古い地震被害を写した写真
約100点
※すべて国立科学博物館所蔵

NATL.MUS
NAT.SCI.

企画展

標本づくりの

職人たちが支える科博

技ワザ



© 早良 朋 / 小学館

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの各種手続き・報道関係資料→写真・施設の貸出からお申し込みできます。

(<http://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/index.html>)



1. 企画展「標本づくりの技」
チラシ表面



2. 伝インカ帝国のミイラ
(所蔵: 国立科学博物館)



3. 明治22年熊本地震の被害写真
(レプリカ)
(所蔵: 国立科学博物館)



4. 腊葉標本作製の様子
さくよう



5. ナウマンゾウ下顎骨実物化石
(所蔵: 国立科学博物館)



6. ゴマフアザラシ剥製
(所蔵: 国立科学博物館)

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 展覧会の開催情報紹介欄に、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は確認のため、校正の段階でお送りください。(記事内容をチェックするものではありません。)
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈広報に関するお問い合わせ先〉 国立科学博物館 事業推進部 広報・運営戦略課 広報戦略担当
電話 03-5814-9855 FAX 03-5814-9899
E-mail ; shuzai@kahaku.go.jp
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

The Expertise of Specimen Preparation

-The Museum is supported by Professionals-

収集された自然物や科学技術の産物などの「モノ」を研究、收藏あるいは展示などの目的に合わせて「標本化する」ことによって、初めて「モノ」は「標本」としての命を獲得する。

標本づくりの技を習得した者は「職人」と呼ぶに相応しく、職人と標本づくりの質が標本の価値を左右する。

NATL.
NAT.

NATL.MUS
NAT.SCI.

Date 2018/9/4~2018/11/25
Loc. National Museum of Nature and Science

職人たちが支える科博

企画展

標本づくりの

技^{ワザ}

「標本」とは、博物館などが、自然界に存在する様々なものを多種多様な目的に沿って全体の中から取りだし、観察・調査する対象の一部を構成するもの。

2018 9/4^火 ~ 11/25^日

国立科学博物館（東京・上野公園）日本館1階企画展示室

- 開館時間■ 午前9時~午後5時 ※金曜・土曜日、10月31日(水)、11月1日(木)は午後8時まで
- 休館日■ 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館し、火曜日休館。ただし、10月1日(月)は開館)
- 入館料■ 一般・大学生620円(団体500円) 高校生以下および65歳以上無料
※常設展示入館料のみでご覧いただけます。
- 主 催■ 国立科学博物館



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

